

西洋道中膝栗毛

五編上



門へ 184
1260
9



西洋道中藤栗毛第五編序

天地間一大戲場と。支那の康熙爺が。飛虹傳の

序文も。開化の方今に至りては。狂言の脚色未ださ

ぞ。文明日小進と。究理月小行りれと。堯舜莽操

の。役割も不的當とせん。されば五大洲の本舞臺よ。

仰ぎて。葭天井の天文を窺ひ。伏々奈落の地理

を量るよ。太陽の火入。圓球の旋轉と共に。造化

西洋道中藤栗毛第五編

氏の奇工を尽す。高嶽の山幕。海灣の浪板を飾
 並。嶋嶼草木の畫割細蜜あふ。場は因ての設
 あり。經度緯度の縦横線へ。迫上迫下の大道具
 を繰り。日覆ひの夜国へ。掃舞臺の沙漠に接
 せ。傳信機の張鉄ふ。トキヨ、鳥笛の號令を知
 らせ。気球船の中央乘。見物の肝膽を冷くじむ。
 関關のワキ狂言へ。野蠻泉穴の古風はしく。發見の

新世界へ。知覺半開の。三番叟あやわらんども。彼
 紀元の一。番目ふ。天主教人の術譲り。大奇怪を引
 返シ。帝國の簾屋臺王国の金襴共和政治の時代
 世話。互市交際の開港。條約の公使の入船。頼
 呷。チャルメラの樂を奏す。波戸場の端路出入の鳴物。
 都て蒸氣の沸音を誂う。目今の新聞の譯文の
 一夜漬。記載たりナ。あよなきの。たアれムリ未ウ

魯西亞の國帝亞細亞半界の大立者。ペイトルヒ元
ハ名小次で。英吉利女王の立阿山。俱小富強の評判
高く。佛蘭西國の一世帝。拿破崙破崙名人の荒事。
歐羅巴洲の對陣敵國を轟々しむ。大詰の一戦
場。人氣を失ひ。政令紛轉の「華盛頓」名ハ合衆
國の。土豪良民を喝采と譽ハせ。各部の員員
連中。イヨ大統領と稱せらる。巨大ある哉地球の

舞臺將各國の盛衰ハ。劇場の大入不入の如く時
勢の得失ハ依りあり。遮莫文官と兵士の講煉。弊
習一洗變革の。新狂言が當時の招看官。その他
翻譯の正本と。書拔くせり。その紋切形ハ僅ハ漆
た滑替洒落仕組ハ浅き硯の海深くハ濡さぬ
膝栗毛博覽會の結局。その一小梨園とハ見
捨あ。龍頭陸續て御見物。いよハ編纂

五輯目開場其填詞告條西洋引と爾云

皇和紀元二千五百三十一年辛未春二月東京本

石街第二坊萬笈閣書房に食客中無為方小

毫と採く低睡の間戯れく題ス

牛膽煉藥黒牡丹之製主

假名垣魯文記



印度人平民男女之圖



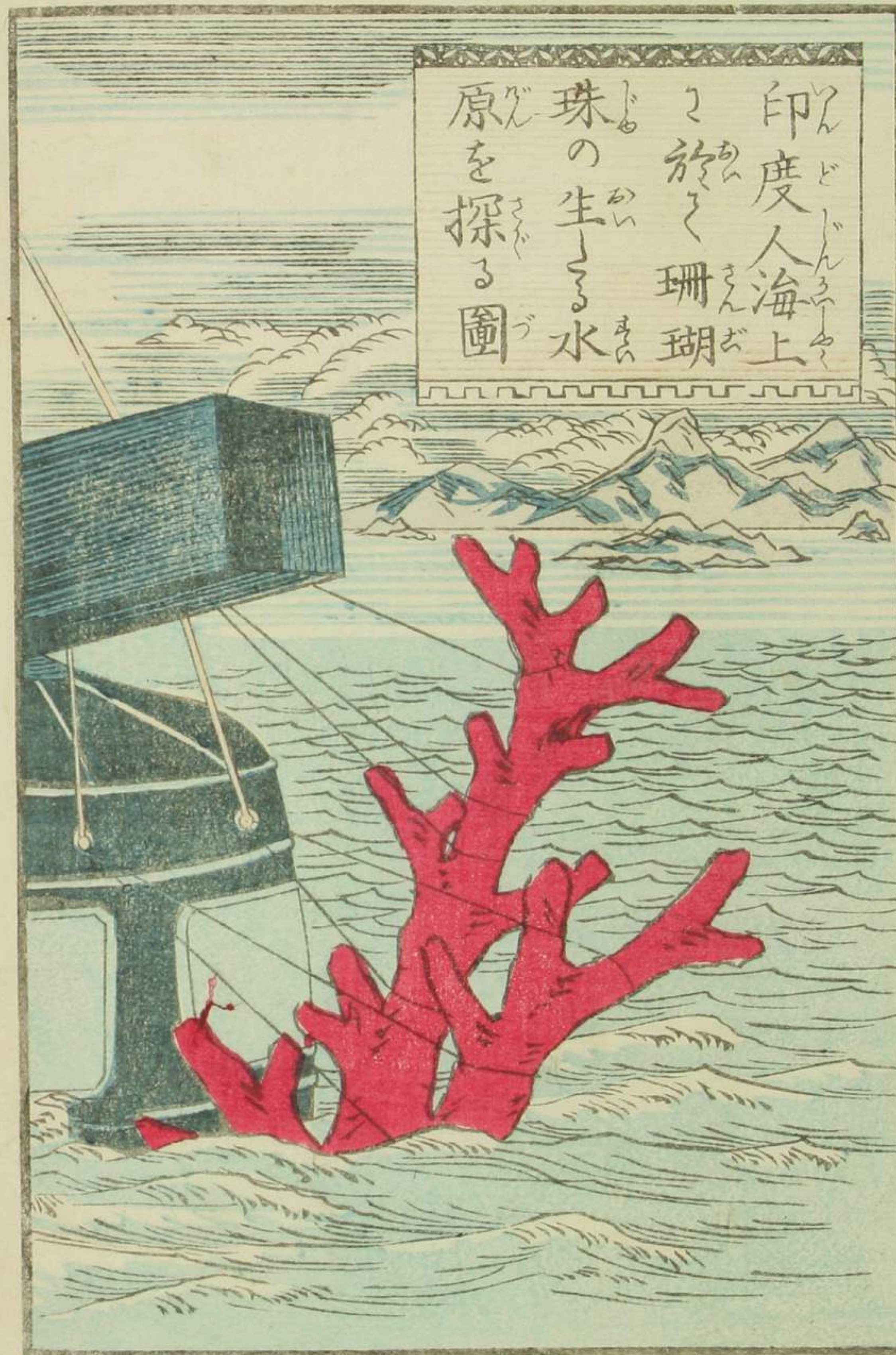
西洋書目五上

四



西海探珠の圖

二



印度人海上
 於珊瑚
 珠の生る水
 原を探る圖

西海探珠の圖

三

不做萬卷行
萬里為足大
言稱男子

卓堂

西洋道中膝栗毛五編上

東京 假名垣魯文戲著

山椒の小粒ども びるまこと辛く我 神測を

小國をれども 宣珍系古石易ありく大り

しから今日まで けちらんやども外國よ敗を取

たるためしあり 之韓も大つくをのふ類づき琉

渚も葦虫の擗げ くやらのい智仁武威の所室

化玉のあよ ぬ徳活ふ潤ふ民の仕合せありく

突ふ所りがつた所国恩九牛肉の一斤をもも報
 ろの関税の騰進歩。彼と我との情をてし
 合しと利益を均等を富ませる要と。物勃
 定の概をつまめて物賤値入のむく主従形の
 小粒の大版をひひら版を小付の色たる
 弥次郎小八妻あし子所高買は他人の特
 鼻福ととつた。南力玄九の鼻唄中ド里。
 活汁がてら弁玉の液りかけたる西洋道中。和

中港の多利あく酒蔵ちじたる航程同志定
 例のふじしが船中徒然をめぐさむる知ひの種
 とあるより却て途の贅を敷一団真小
 のることあかり現て死御社の屋敷を分て
 小西ふちむらひ曰ナにとり小橋ふより石炭
 を精たく足史より印渡海小糸のこーセイロン
 とり小橋のちあるコウルとりの港小若ぬる
 セイロンの英吉利願あく島のめぐり三百余里

港^{みなと}敷^{しき}ヶ所^{ところ}あり花^{はな}御^ご船^{せん}の入^{いり}津^つもる港^{みなと}をホイン
 トデゴウル」といふも「シンガポウル」の^ト時^{とき}候^{こう}と^は違^{ちが}ひ
 産^{さん}物^{ぶつ}も^もおを^おを^を産^{さん}じ^じその^{その}う^うち^ち不^ふ挂^{けい}枝^し多^たく^く身^み一^{いっ}た^たん^んの
 名^な産^{さん}た^たれ^れバ^バ一^{いっ}名^なを^を挂^{けい}枝^し多^たく^くも^も身^み一^{いっ}た^たん^んの
 中^{ちゆう}の^の象^{さう}多^たく^くと^とれ^れを^を馴^なし^して^て牛^{うし}馬^ばの^の如^{ごと}く^くつ^つか^かふ
 若^{わか}あり^りされ^れバ^バ象^{さう}牙^がも^も活^{くわ}山^{さん}あ^あく^くさ^さぬ^ぬぐ^ぐ不^ふ細^{さい}工^{こう}し
 たる^{たる}賣^う物^{ぶつ}も^もあ^ある^るとい^いへ^へり^り新^{しん}々^々情^{じやう}院^{えん}舎^{しゃ}の^の一^{いっ}種^{しゆ}の
 五^ごウ^ウル^ル港^{みなと}の^の結^{むす}舎^{しゃ}不^ふ若^{わか}き^き船^{せん}中^{ちゆう}の^のと^とら^ら死^ぶひ^ひ長^{なが}旅^{たび}

の^の音^ね骨^{こつ}れ^れを^をい^いき^きか^かち^ちら^らも^も必^{ひつ}ひ^ひを^を産^{さん}じ^じか^かの^のく^く
 陸^{りく}意^いく^く打^{うち}ら^らる^るぎ^ぎ奢^{しゃ}熱^{ねつ}不^ふた^たく^く男^{おとこ}子^この^の
 産^{さん}物^{ぶつ}も^もあ^ある^る若^{わか}あり^りく^く産^{さん}地^ぢ所^{じよ}八^{はち}通^{つう}以^い所^{じよ}の^の三^{さん}個^ご
 も^も等^{とう}しく^く素^そ紀^きあ^あく^く舎^{しゃ}多^たく^く後^ごと^とあ^ある^るこの^{この}
 産^{さん}物^{ぶつ}も^もあ^ある^る不^ふた^たち^ちの^の必^{ひつ}知^ち被^ひ知^ちと^と見^みあ^ある^るさ^さあ^あが
 ら^ら下^{した}キ^キ二^に通^{つう}さん^{さん}印^{いん}度^ど領^{りやう}の^の熱^{ねつ}い^いあ^あや^やア^アと^とら^らる^るの^のう^う
 通^{つう}考^{こう}し^し年^{ねん}箇^ご年^{ねん}中^{ちゆう}を^をと^とら^らる^るか^から^ら若^{わか}め^めの^のが
 入^{いり}ら^らぬ^ぬく^く産^{さん}物^{ぶつ}も^も子^こ孫^{そん}一^{いっ}つ^つの^のや^やア^アと^とら^らる^るだ^だけ^けれ^れど^ど女^{にょ}

西洋果物五上

どのの色々のあつらひヨ小ぎるぬれを
 世と面とらやア辱のまのうらぐまこのやうな
 有りのをしたさぬの百鬼夜行の巻物を生で
 えるやうだせ 一男のありもあつしらせ 大方急舞の
 稀前まぢね紅坊主が瓶お化されのやうり
 ありる珍中をかぶりやアがつくまろくろみつらで
 のつそりしとくけつかるさぬの岩園やのひるね
 が居跡りふあるやうと通テヤクちよろと見えぬ

むふのさうで悪人たちが角力をとつてぬるヨ
 あつらひ妙が珠イヤ奇絶くそむく奇ツく見え
 物あやせう 一画の巻物
 のめつらひさくそでつれもさう身ありあつらひさるひはたの
 ころあるものをあすあつらひさくそを中めてつらひさるひはたの
 あつらひさるひはたのあつらひさくそをすまひ 通テ
 どうしたおさん
 あめく花のおまじくらちをんどうらぬくで人が弱
 そろか奴等がそろつておるぜ 珠一おや花らんぞ
 かつはじから投つけて日本人の大力をえせて

やれぬけ奴等をあげつけるのの務見を玉
 おとるやうあめんぶちット大人げぬく日けぶせ
 筋づらなるめをんみきき意がらるのの總体
 卯玉のやうらひ目白人をゆでも極くやうお見
 こごしとけつるからとららう勇筆をえせる組
 だてぬくらやあらあれが飛とんぶ投つけてやら
 アいそれでも富本の津ろりおそりく角力の
 とどまりの平交めておれ在せとらぬ文也が五

うらけぶがえ組かも志れぬくひよると程とらと
 お飛とんぶまけでもまのやア我必のたぶらたら
 ら被奴等の知れをえておるのこつからたを
 骨と波をかりぶシ腰がころんつとあーが深て
 みるから安んぶ一たんおとんぶまじしとやらう
 トさひつひのえつら身ゆかのかまよひの仲おりのニコをふそ
 むらいたれども合ふおとらとゆふありをえせるおとんぶら
 ひとまるといおあり志をらく仲るとだんううせしゆらまあるがまら
 だんいまらりやのちあんをらふらお八ふなちゆえがゆらありてら
 まらい北い通いらんえぬくあつらぬくつらの奴が出て来ぜ





西洋取经 第五回

北八
孙改

じぶらおのちらだんしきめいものんべいおんおのちら
 除^{ヤド}汰^トさんも松^{マツ}由^ユツイそのきふるツくろくそら
 びうあよぎもあらねんぐ棒^{ヤウ}ちぎりを板^{イタ}子の
 代^エりふしそ花^{ハナ}さんじとまろろアレガ子^コモシ河^カ童^童と
 ろらみのぐいせんせうもつぬりめぢやく〜毛^ケが
 とも〜おんのくおさうらがあつてつらひすろおんの
 やうを脊^セ中^中お甲^{カウ}らをきよう〜お捨^{スツ}のあらしが
 ぐ〜だらけみ細^コいままのじしてさらきあり通^ツ

さんの尻^シを移^ウらひこんごとおひみせ入^イ通^ツさん
 がアツと一^{ひと}下^こああげるとたちまちおそく入^イひれ
 びりこぬれ〜やうすでか〜ちがえんあ〜をツく
 あめんや〜たねい尻^シだまをぬるま〜りくとおツ
 たらら〜やアけ方^{かた}等の身^みのよふかりる一^{ひと}大^{だい}子^こ
 がでま〜と一^{ひと}生^{せい}けんめい除^{ヤド}汰^トさんとあ〜りぐ
 おめんぐ〜をよびたてたのサそのらもあ彼^か河^カ童^童
 がま〜は〜く〜あやアが〜け〜目^め中^{ちゆう}〜と

西洋書毛五

十七

喉^{のど}立^たつてゝおをを^を 喰^くいて^ても^も ぐ^ぐー^ーも^も せ^せぞ^ぞふ^ふと^とぐ^ぐ
 屋^やの^の 志^しづ^づん^んと^と 志^しぬ^ぬや^やー^ーと^とぐ^ぐナ^ナント^{ント} 神^{しん}國^{こく}ふ^ふら^らぬ^ぬ
 色^{いろ}の^の 何^{なに}が^がこ^この^の 志^しづ^づが^がと^とめ^めて^てお^おう^うり^り や^やし^しる^る 縁^縁
 実^{じつ}ふ^ふ 今^{いま}を^を 志^しぬ^ぬと^と 志^しぬ^ぬや^やー^ーと^と 志^しぬ^ぬせん^{せん}か^かあ^あ
 ひ^ひそ^そう^うか^かの^の 通^とさん^{さん}サ^サを^を 志^しぬ^ぬと^と 志^しぬ^ぬが^がつ^ついて^{いて} 日^ひ本^{ほん}人^{じん}
 だ^だと^とら^らぬ^ぬア^アか^かつ^つを^を 志^しぬ^ぬと^と 志^しぬ^ぬの^の 志^しぬ^ぬや^やー^ーあ^あう^うら^らた^た
 め^めの^のを^を 志^しぬ^ぬし^し 通^とさん^{さん}と^とら^らぬ^ぬも^も 志^しぬ^ぬん^ん 縁^縁が^が
 つ^つ 強^{たか}つ^つと^とぬ^ぬめ^めん^んぶ^ぶか^かつ^つと^とん^んめ^めめ^めふ^ふあ^あめ^めの^のサ^サ

北^北「^北その^{その}お^おせ^せう^うを^をん^んふ^ふら^らち^ちと^と 志^しぬ^ぬま^まを^をの^のち^ちを^をじ^じ
 め^めと^とと^とら^らだ^だつ^つが^がと^とら^らの^の 神^{かみ}が^がえ^えど^どふ^ふし^しぶ^ぶん^んる^る
 い^い 正^{せい}直^{ちく}が^が 志^しぬ^ぬ一^一サ^サ子^子 縁^縁「^縁志^しぬ^ぬー^ーあ^あん^んが^があ^あう^うち^ちや^やく^く若^{わか}
 ても^{ても} 通^とさん^{さん}を^を 志^しぬ^ぬと^とら^らぬ^ぬめ^めふ^ふや^やー^ーあ^あう^うま^まや^やま^まぬ^ぬぬ^ぬ
 り^りぬ^ぬ志^しぬ^ぬん^んめ^めと^とと^とら^らひ^ひぬ^ぬあ^あげ^げの^の 志^しぬ^ぬが^がか^かん^ん志^しぬ^ぬ
 の^の 志^しぬ^ぬと^とら^らぬ^ぬあ^あく^くあ^あつ^つと^とぬ^ぬか^から^ら志^しぬ^ぬの^の 志^しぬ^ぬ
 志^しぬ^ぬせん^{せん}せ^せの^のが^がと^とら^らぬ^ぬも^も「^ボボ^ン」[」]「^ウウ^リユ^ス」[」]が^がか^から^ら
 つ^つけ^けく^くも^も 志^しぬ^ぬせん^{せん}た^たま^まか^かる^る 志^しぬ^ぬを^をひ^ひあ^あー^ーぶ^ぶ

トあのまたららうふあがれらしとぬるさのちうゆゑ通に解
 がはしあよびつちヤシの本ののりたることをらうふあがれら
 のけのあふえつぬめあぶつそふあぶつしめのなるとあてむの
 りやうめて身かきしむさびをかきまんたぬ通に解ふとがを
 あまうあとかこもあれことをあやぶりちびしてそのむをさ
 んとかつぐふあひびちをらちまをらうむるふひろびう
 をはじめのちうづうのめまことじからぬとてあの人どつじらうが
 ちらざるふあうむらうびあうむらうとあかぬかぬおあを
 あがのむたづねてうづひをたらすべしと因あゆのさつりきんふ
 だんろうをまるとふまきぬり解に北八のらあきをうよせけのやと
 まんあぶを解「七シ解つ通さんのまぐんどのうら
 きまらうり
 どらららびびりやせうがあんあふひろイらけ
 だららぬ知くぼくうあれやせんせひらう「そらうサ

らぬ異人さんをたのんぶ「ハツテイラ」の一艘ゆ
 備りしく中繩をししくたづぬくえやうホコニとん
 だとを仕でりしてせ被奴がぬぬへとさうをくふ
 中どつくり「トのあつらんふ」○あふまの通に解の
 さのせんをやくもむらみのさしふあやだつはじくと
 去人等が象の思をけしかけるふあをれえ椰
 子の木のこぼれふのぢをまをらうく極るをらか
 ぐらうらたたら座のらちゆめが跡に解に北八の

あせく橋くら下ガとびりーあつらう 浩「あんの
 ねんどうらろまやアびげんねん殺らからあや
 けらまけん玉のチあらぶらうくまのやせらん
 ちろアらみさんみあのやア押みの実さあなん
 でもヒウドロクー 小ちげんねん トそとまきとらげん
 あらまをえとらうま
 通「アイー 親おどろぞちやくあらしてあらん
 せん海江さんハ八さんも高者どん修七どん
 とちやくく トせりたつる小海江らうハ八いあん小きうら
 まろくくつが多れつじし都あまびさのせん水死色

たるとあひひてひろびろうとあまあくおあらぬあと 北「あ
 どもいたるどあろけんせんうとそとまきとらうく
 ちど親おちやくく 生く通さん小ちげんおせん
 せんせ ひろ 「ホンニ通公たどらじろく水のあろ小
 たののう本のうくくのちったらう 強「あちかごん
 びあでもさらされろ息さあまけしこのく
 ちせんせう ひろ 「あしてちちやくくあらしてやりて
 めんぶる頂上まぞのニ丈夫あるだらう 北「い
 でおあちちりやうせめぐツくすをしるまか

ありきぶらゝのうらだんおやアねんごうらう
 風をじてとらじそやんあせくあめれたちが一組
 ぶじしことおやアねんごうらうのうらだん
 係乳の捕逐は席に居るちの工風をわきま
 そゆ〜けあじとらじそやんあせくあめれたちが
 四百六十六年十歳盤玉の軍帥「カケテワレ
 とらじ人があつて「マコ山」のうらだん
 おの兵が二万二千三百三十三騎とらじもの

款ふ進ま〜〜百日紅の本に迎のわつた子とと
 ろ〜本の上うら鉄炮を三万二千三百三十三
 挺のちどふおらとらじそやんあせくあめれたちが
 へきおはじ〜陳宮の務利とらじたりる
 コウ〜陳宮さんむごい〜かげんはしてあら
 ま工風があるあらちやくあせくあめれたちが
 られてあせくアをりし〜係サをらんぶらう
 から係を移くと係がらうらやせんがらをぎぶ



石炭の里
 煙り乃
 果也
 雲の
 字



通治

かゝる事不^{まじ}本^{ほん}文^{ぶん}おたりかゝるやせう^{せう}形^{かたち}で
さくも先^{まづ}本^{ほん}の^{うら}さ^さが三^{さん}丈^{じょう}とつ^つの^りやま^まと
あり^くお^ま本^{ほん}命^{いのち}の^か階^{かい}梯^は志^しや^ある^ま不^ま阿^あの^ねお^ね
からそ^らが^く工^{くわう}風^{ふう}ご^う愛^{あい}不^ふ男^{おとこ}が^お六^む人^{にん}お^らか^らら^れ
め^くさん^をを^はじ^めそ^んあ^が志^めく^おる^あん^ど
を^まづ^して^み六^む尺^{せき}づ^あら^くい^は本^{ほん}に^むま^じび^付
て^サ余^{あま}つた^り志^しを^を編^ひじて^そく^人思^しを^あん
かけ^く途^と中^{ちゆう}中^{ちゆう}の^あめ^びを^つけ^りや^ア六^む尺^{せき}

あ^じし^とえ^く六^む人^{にん}の^あん^どじ^だう^くみ^六三^{さん}
十^{じゅう}それ^三丈^{じょう}不^ふあり^やせ^うナ^んト^のく^あら^うの
妙^{めう}く^ごせ^くせ^うこの^法を^歐羅^ら巴^ば志^しや^アト^ク
ビ^コン^フミ^ドヲ^シ』と^のや^ませ^なん^くも^實理^り
が^く志^しを^あけ^りや^アの^工風^{ふう}の^出ね^のの^サ北^{きた}へ^飛飛^と飛^と
白^{ちやく}飛^ひる^志ら^ねく^がへ^ち身^みを^もね^く工^{くわう}風^{ふう}を^てん^ぶ
鼻^{はな}の^さん^人あ^らま^げる^の強^{ちやう}ぶ^らま^げて^もあ^り
ま^いして^も南^{なん}飛^ひ理^りふ^け智^ち意^いが^てる^のの^り

ひら「ま」ぞうでもらからちやく志やうせ運
 公ぐ侍か移くアレ「を」をたのてよんで
 おるハるサア「ん」あがふんどしををがした

ト
 ひら「ま」のちちをあげふあのがふんどしををがし
 だせの侍はハハをにじめひるぞうがめううひ南吉佐
 七のぬらあんの下男かまのづれををがしてはだきを結ううの
 さのあまあーのかるところふひよすちをむすびつけあをーを
 口にしてこまふあーををがしけさた「ん」こかあどとくし
 むまびまをうこまふあーをうけてわりきこまを通ううもひだ
 つたあんあくや夕へかりきたあひるぞうををがしめあひつが
 かきををまぬくまあぞ結はハもまぶるけきどどくまを
 よねあどふぞうせの通ううもこまををがれてくはにたあひ
 こめてせぞひるぞうま「ん」とちちのまをかりきこまを

あひらぬまをうめをうのじあど
 まるうもふ見まううふれをけり
 美人の通は廊がのぬおも実るを
 小かうらんかとおやぶとあがらひん
 やれたのるおまりぞま
 うかんぞせ

まうらま学あどら虚の川を廊
 ゆがてぞ尻ぐこまうらああん

北「ま」ううまのよまこみあやアへ布あがあうり

めいへとおまふのちぞんこどつひづら

勝たるとおもふお撲も象が鼻

まねるまねたるおの中入り

糸~~~~ぞんぐどん~~~~ぞん~~~~かき

イてあきられらうか~~~~ぞんだち箱ごと

さうぢつふぢぢ ちるゝ産変いと立出ぬ

西洋道中 藤栗毛五編上

